猫のお留守番

わが家の猫達が気の合うのはどんな時？

猫様達の食事の時間は
朝の７時半、
昼の２時、
夜の７時です。

今日は昼に出かける事になりました。

猫ちゃん達！
行って来るからお留守番をお願いね。
良い子にしていてね。

でも、ドアをトントン
たたかれても開けてはいけませんよ。

また、電話がリンリンしても取らないでね。

その代わり

お家には誰もいないから
 走り回っていいからね。
 テーブルに上がっていいからね。
見てないからね。

ゴミ箱をあさっても
食べ物はないから無駄だよ。

もし、暇だったらね

みんなの手足で拭き掃除してもいいのよ。

落とした毛を拾い集めて
ボールにしても面白いよ。

２時の餌までは帰って来るからね。
とドアを閉めて車で出掛けた。

それから，何が起きたのでしょうか？

どうしたの？

にゃ〜ん！
おーい、みんな集まって来いよ。

この家には猫しかいなぞ〜
とボスのトミーが叫んだ。

え〜そうなの？

やったにゃ〜ん。と玉ゴロ様、

やっぴ〜とイチロウ君

そして，末っ子のミュ〜タちゃんが
び〜にゃ〜と走って来た。

そこで、ボスのトミーがみんなに、
今から家の人が帰ってくるまで何をしようか？
と言出した。

そこで、玉ゴロ様が
じゃーみんなで面白い事して遊ぼうよと言出した。

にゃ〜ん、にゃ〜んとみんなが返事した。

じゃー何して遊ぶ？
ボス　トミーは棚に上がり、お外が見たいと高い棚に登った。

みんなも夫々に違う棚に登り、外を眺めた。

窓から外の景色を眺めていた。

そこに、リス達が木の実を雪の下から
何度も繰り返して探しているのを見た。

又、小鳥達も小さな木の実を
同じように落ち葉をくちばしで退かしながら探してた。

外の動物達が文句を言わずに
必死に餌探してる姿が頼もしく見えた。

猫達は外にいる動物は大変だね。
でも偉いなあーとみんな呟いた。

そこで、イチロウ君が僕は食いしん坊だから
家の人がいないうちにゴミ箱を漁ろうと
思ったが止めると言った。

一番下のミュ〜タちゃんは
ソファーで爪研ぎをしようと思ったが止めると言った。

玉ゴロ君は
トイレ以外で済まそうと思ったけど止めると言った。

トミーボスは
生け花をかじろうと思ったが止めると言った。

 そして、みんなは棚から下りて、
又、相談し始めた。

次は何を相談したの？

それは、みんな反省をしたのです。

いつも時間通りに餌がもらえて、
トイレを掃除してくれて、
ブラッシングして、
なでなでしてくれていた事が

とても贅沢に思えたのです。

そこで、猫達は今まで恵まれていた事に
築き出したのです。

そして、お礼に家の人が言ってた様に
手足で床の掃除をした。
落とした毛を集めた。
そうやっている姿は
外の動物達と同じぐらい頼もしく、輝いていた。

やがて、家の人が帰って来た。

あ〜ごめんね。
遅くなっちゃた！
お腹すいたでしょう！

ごめんね。
と家の人は優しく声を掛けながら餌をお皿に入れた。

家の人は猫達が
床の掃除をした事も毛集めをした事も知らずにいた。

猫達も言わずにモクモクと食べていた。

猫達は心の中で家の人に解って貰えなくても良いとおもった。

家の中で餌が食べれるだけでも
有難いと思えたからです。

素晴らしいですね。

私は今、不自由無く生活できているのは
家族や友人のお陰だと感謝をしました。

ありがとう！みんな！

カモメがクワ〜と飛んで行った

　カモメがクワ〜と飛んで行った。

立冬に入った秋
いいお天気の午後です。

裏庭に落ち葉が沢山落ちてます。

どれどれ、お掃除でもしましょう。。
と外に出ました。

すると、遠くの方から
クワ〜、クワ〜、と鳥の声がします。

直ぐ、空を見上げると
カモメの集団がお行儀よく一列に
並び飛んでいきました。

すると、又、別のカモメの集団が飛んでいきました。

首をそり返しながら、飛んでいく様子を眺めました。

すごいな〜、
皆、リズムを合わせて飛んでいる。

誰か、リーダーがいるのかしら？
と思い、眺めていたら
ぐわ〜と、
どすの利いた声の後に、皆が一斉に
クワ〜、クワ〜、と繰り返してます。

あれがリーダーなのか。。

でも、皆、すごいわ〜
列を外れること無く、飛んでいるものね。

何処へ、行くんだろう。
どうやら、南に向かって飛んで行ってます。

あ〜、そうか。
そうなのか、寒く成って来たので、
暖かい南の方へ行くのね。

私達、人間は寒く成ると
服を半袖から長袖に変え
又、重ね着をしたりして寒さに対応でいますね。

こんな事のできない鳥達は暖かい南を目指して、
長い、長い、旅へと
羽をバタバタさせて
飛んでいくしかないもんね。

私達は恵まれているわね。
でも、飛べないわ！
これで、おわいこね。

耳さん、聴こえてる？

耳さん！聞こえている？

ねぇ〜ねぇ！耳さん、
私が愛しているって聞こえてる？

あ〜聴こえてるよ。
愛しているって素晴らしい響きだからね。

よかった。
聞こえていたのね。

ある時、耳さんは、ちっとも聴いてくれません。
そこで、又、尋ねました。

ねぇ〜耳さん！聞こえている？

全然、聞こえないよ。

なぜ？
だって、嫌いだ〜とか、
腹が立つとか、
あんなやつとか、
そんな、耳障りの言葉は聴きたくないよ。
なあ〜左耳さん。

ええ！私も右耳さんと同じ気持ちよ。

あ〜そうなんだ。
私がいやな言葉を言うと耳さん達も気持ちが
悪いのね。
解ったわ。

言っている本人も気分が悪いものね。

聴いた人が喜ぶよな言葉を使うわ。

それはいいね。
私達、耳としては、とても有難い耳寄りな話です。

なるほど、耳寄りの話とは
良い言葉を使っている話なのね。

よく解ったわ。

耳さん達！
大切な事を教えてくれて、ありがとう！

今まで、勝手ツンボとか言って、
ごめんね。

今からは耳寄りな言葉を使うわね。
ありがとう！

小さな訪問者

小さな訪問者

ある日の午後です。

娘が大声をだしました。

大きな、ありんこさんが家の中にいました。

娘は怖いから早く外へ出して
と大騒ぎをしています。

仕方が無いわね。

どれどれ

私はアリ君を紙に乗せて玄関の外に出しました。

次の日も又、
ありんこさんが家の中に居ました。

同じ様にアリ君を紙に乗せて外へ出しました。

アリ君はなかなか玄関先から動こうとしません。

何か言いたいの？
口のところで前足をこすってます。

もしかして、
天国へ行った旦那様のお使いですか？

私達を心配して来てくれたのね。

アリ君、ありがとう！

私達はもう、大丈夫だよ。

だから、仲間の所へお帰り

なかなか、動こうとしません。

そこで、私はアリ君の前を細い棒で
トントンと叩き

アリ君！
こっちへ行くんだよ！

何度もトントンと叩いていると
やっと歩き出しました。

玄関のドアから門のフェンスまで
私もアリ君のスピードに合わせて
ゆっくり、少しずつ
ちょこまか、ちょこまかと
歩きながら
トントンし続けました。

やっと
門のフェンスをくぐらせて
前庭の芝生の所まで誘導しました。　そして　言いました

アリ君！
わざわざ尋ねてくれて
ありがとうね！

気をつけて行くんだよ。
と声を掛けると

ちょこまか、ちょこまかと
必死に前を向いて
歩いていたアリ君が
ふっと
振り返りました。

まるで手を振っているかの様でした。

私も手を振りながら
また、遊びに来てね。
と言いました。

アリ君を見送っていると
なんだか
胸があつくなり
涙が零れ落ちました。

我が家に来た
小さな訪問者でした。

話し相手はゴキブリさん

話相手はゴキブリさん

男性がいつものように家に帰って来ました。
だれも、お帰りなさいと言ってくれません。
お留守ですか？

彼は独り言を言います。
ただいま！
と部屋の住民の誰かに挨拶です。

そして、何時ものように　誰かが聞いているかの様に話つづけます。
今日の出来事など自分の思いなどを思い切り話します。

すると、部屋の隅の方から１匹のゴキブリさんが顔を出して来ました。
そして、次々とお友達のゴキブリ達が出て来ました。
とうとう、この部屋の住民がみんな集まりました。

そこで、彼がみんなにお礼を言いました。
いつも、私の話を聞いてくれて、
ありがとう！

皆は今日はどうしていたの？と聞きました。

すると、若いゴキブリ君が話出しました。
僕はきょうは嫌な事があったから
少し話を聞いてくれますか?
少し元気のない声で話始めました。

男性がどうしたんだい？
とやさしくききました。

すると、若いゴキブリ君が最近は仕事の量が減ってきたので、
お小遣いが減ってさ
彼女と遊びにいけないだよ。
と言いました。

男性がどうして遊びに行けないのか？

だって、デートするにしても、
食事をするにもお金が必要でしょう！
と答えました。

そこで、男性が又、言いました。
お金を使わないデードの仕方が有るはずだよ。
遠くへ行く時はおにぎりを作り、
お茶や水をペットボトルに入れて、持って行けば良いし。

又、遊び方も、お金のかからない遊びが有るぞ、いくらでも

俺の若い時はデートは公園のベンチだよ。
彼女の座る所には、ちゃんとハンカチを敷いてあげてさ。
おしゃべりをして疲れたら、草むらに寝ころんだり、
すると、彼女がカバンから
そっと、甘いアメやキャラメルを取り出してくれて、
　はい！どうぞ！可愛い手で差し出してくれるんだよ。
それを、ありがとう！と受け取り　サット、口に放り込むだよ。

その時に彼女を眺めるのさ
彼女は嬉しそうに下を向いているんだよ。
可愛いと思うのさ。

早く、この可愛い彼女と結婚をしようと心に決めるだよ。
大抵の男性はね。

そして、給料の入った日には少し贅沢をしてレストランへ連れて行くのさ。
だまに、行くからとても、楽しくて
有意義なんだよ。

今の君達みたいに、いつでもレストランやコンビニで金を使っていたら、
金なんてすぐに、無くなってしまうさ。
当たり前の事だろう。
仕事の量が減り、金が減ったなら

それなりの使える範囲で楽しむ事を彼女と話するのも
また、面白じゃないのかと男性は話つづけました。

それを聴いていた若いゴキブリ君は何やら思いついたようです。

ありがとう！おじさん！僕はこれから金の無駄使いを止めて
彼女とデートのときも出来るだけ金を使わない様に、
食事を済ませて、デートするとか考えます。

そして、たまに、贅沢にレストランへ連れて行くよ。
遊びもお金の掛からない散歩をしたり、
音楽を聴いたり、
絵を描いたり
たまに、公園の掃除の奉仕をしたりするよ。

考えたら色々と面白い事が浮かんできたよ。

そんな事に付き合ってくれる彼女が良いな。
結婚してもやり繰り上手だと思うしね。
決めた！我、おじさんのやり方でやってみるよ。

もし、それで、だめな彼女だったら、別れる！
　何だか、勇気が出てきたぞ！

おじさん！ありがとう！

それを聞いた、男性はほっとして、大好きな晩酌を始めた。
住人のゴキブリ達も一緒に晩酌に付き合いました。

そして、いつもの様に　男性が今日も素晴らしい日だったと言って
みんなに感謝をしてねました。

おやすみ！　ゴキブリ君達。

桜さん！頑張ってね

　桜さん！頑張ってね。

今年のカンザスの夏はとても暑く４５度を超す日がありました。

その翌日から木に異変がおきました。

葉が焼けてしまったのです。

日に日に葉は茶色になり枯れてしまいました。

私の大好きな、
しだれ桜さんは猛暑に負けたのです。

私は涼しい家の中にいて、
桜さんの訴えを見逃してしまったのです。

とても残念です。

でも、葉は枯れても
茎や幹は大丈夫であって欲しいと
せっせと水やりや腐葉土を掛けました。

今まで、春には美しい八重の花を咲かせていたのに
と心が痛みました。

どうか
お願いだから枯れないで生き延びてね。

私が悪かったわ。

貴女が暑いと訴えていたのに。。
築かずに本当にごめんね。

今からは、暑い日は

陽よけに布を被せたり、
水を思い切り飲ませてあげるね。

だから、お願いよ！生き延びてちょうだいね。

こうして、毎日の様に桜さんに話掛けました。

それから１ヶ月が経った頃、
桜さんの枝を良く見ると青々としているではありませんか。

どうやら、枝の先だけ枯れて他は大丈夫の様です。

よかったわ！
嬉しいわ！
毎日の様に、美しい桜の花を思い出して
もう一ど見たいから生き延びてと祈っていたの。

良かったわ。
本当は
もう桜さんとお別れなのかと
心は少し病んでいたのよ。

これで、私も希望が出て来たわ。

諦めずに水やりをして、
ごめんねと謝ったりしていたから
ちゃんと桜さん聴いてくれていたのね。
ありがとう！

今から厳しい冬が遣って来るけど
一緒に乗り越えましょうね。

寒く無い様に、もっと腐葉土を足してあげるわね。

桜さん、何か必要な物はない？
と桜さんに尋ねました。

すると、桜さんは申し訳なさそうに
いつもの様に私が来年も美しく花を咲かせれる様に
祈って欲しいと言いました。

もちろんですよ。
私も貴女の美しい花を見たいもの
それにね、私は貴女をとても自慢しているのよ。

夏の暑さにも耐え冬の寒さに耐えて、
じっと辛抱して春には美しい花を咲かせるでしょう。

強く耐えた分、美しいのよね。

人生も同じよね。
自分が頑張った分、努力した分
実りとして結果が出るのね。

桜さん，貴女は私のお手本よ。
ありがとう！
♬春よこい　早くこい♬

空気さん、寒くない？

空気さん！寒くない？

日曜日の朝はいつも、起きて直に、新聞を取りにいきます。

まず、真向かいのおばあちゃん家へ行き
おばあちゃんの新聞を庭から拾い、玄関のドアの前に置きます。

それから、自分の庭にある新聞を取り、家にもどります。

今日は特別に寒いのです。

思わず
空気さん、彼方も寒いでしょうね。
こんな日はね。
と尋ねました。

しかし、なんの返事もありません。

やっぱし、空気さんは感じないのかな
と独り言を言っていると
,
ヒューと、口笛を吹きながら
俺も寒いですよ。
と震えて言いました。

そっか、空気さんは寒いと口笛を吹くのね。

彼方の事を私達はあまり気にしてなかったね。

昔は空気さんはよかったね。

最近は彼方も大変ね。

車からは臭い煙がでるし、
工場でもモクモクと煙はでるしね。

彼方も、住み憎いよね。

そんな時に彼方の存在を意識し出したのよね。
前はいつでも、
私達は美味しい空気が一杯吸って居れたから、
有難さを忘れてたね。
ごめんね。

すると、空気さんが大きく息をして
人間て　さ、いつも有ると思うと
築かないだよね。
何でもそうだよ。
と空気さんが言い続けた。

お金が沢山有るうちは無駄遣いをしてさ、
お金がなくなってくると
もっと大事に使えば良かったと反省をする。

また、夜遅くまで起きて、テレビやパソコンをいじっていると
朝が辛い、おきられませんね。
その時に早く寝たらよかったとね。

みんな、恵まれている時は、気がつかないよね。

あるお母さんは
子供達が騒がしく、のんびりできないと、わめいていたけど
その子供達が大きく成って家を出て行った後に、寂しく思うね。

だから、子供達がうるさいのは元気な証拠で、一番幸せな時なんだよね。

世間でも仕事が忙しいと文句を言ってた人が、
不景気に成ってきて、
はじめて、忙しく仕事が有った事に感謝をするよね。。。。。
と空気さんはいろんな例をあげてくれた。

う〜ん、そうなんだよね。

私達は何かが、
無くなったり、
悪く成ったり、
いなく成った時にその大切さを知るのね。

だから神様はその築きのために、不都合を与えたりするんだね。

解ったわ！

いやな事が起きた時は何かを教えてくれているんだね。

何だか、元気が出て来たわ。
悩んでいる事も素晴らしい事なんだね。
自分を育てているんだね。

もう、悩みがどっかへいちゃた。

空気さん、寒い日にとても大切な事を教えてくれて、
ありがとう。

そのお礼に我が家にお入り
暖かい暖炉があるよ。

そうかい、じゃ〜お邪魔するよ。

どうぞ！　今、暖かいお茶をいれるわね。

空気さんは暖かい暖炉の前に座りました。

そして、暖かいなあ〜　しあわせだな〜と嬉しい悲鳴をあげていました。

はい、お待たせしました。
お茶をどうぞ！と差し出すと。

おや！空気さんはいません。

何処へいったのかしら？

空気さん、どこ？

よく見ると
空気さんの座っていた所は
水になっていました。

空気さんは心まで暖まったのね。

だから、うれし涙ね。
このお水はあなたの幸せの証なのね。

空気さん！いつも、ありがとう！

寒いからみんな集まれ！、

寒いからみんな,集まれ

今日は寒いから暖かいお料理をしましょう。

野菜さん達が俺も、私も、僕ちゃんも

寒いよ、暖まりたいよ。
と口々に言ってます。

仕方が無いので
みんな、おいで！
と声を掛けると、

常連さんの
タマネギ様
人参ちゃん
じゃがいもさん
トマトさんが集まってきました。

そこで、いつも缶の中で出番を待ち続けている
グリービーンさん、トマトさんも
手をあげました。

これでみんな集まったのかな？

待った、待った！
俺様を忘れているぞ
と昨日久しぶりに帰ってきたセロリ君が立ち上がりました。

あら、まあ！
背が伸びていたから解らなかったわ！
ごめんね。

じゃ～みんな服を脱いで、
ジャーワーを帯びなさい。

済んだら散髪をするわね。
最後に楽しい温泉に入りましょう。

今日の温泉の香りは、
ローストチキンの骨さん達
とスモークウインナーだよ。

どう？
温かくなった？
汗が出てきたら
塩の補給ね。

どうやら
気分よく成ってきで
ワインを飲みたいって

解ったわ。
ゆうべの飲み残しのワインから先にどうぞ！

それから、グズグズと３０分ほど経つと

おや、静かですね。

気持ちよく寝ているわ。

やったぁ！
今が食べ時だ。

いただきます！
う～ん、美味しい！
ごちそうさまでした。
寒い日は、暖か～い野菜スープだね。
みんな、ありがとう！

寒いダイヤモンドの朝

寒いダイヤモンドの朝

寒い、冷たい朝

窓から外をみると

今日もお日様がおはよう！と挨拶をしています。

さわやかです。

でも、寒そうです。

桜の木さん！あなたは大丈夫なの？

松の木さん！あなたはどうなの、寒い？

みんな返事が有りませんね。

あ〜寒さに耐えているのね。

その時、キラキラと光ってます。

きれいだね。

よく見ると

庭一面に
ダイヤモンドを敷き詰めてあります。

美しいね。

お日様が光らせているのね。

夕べ、雨が降ったから

それが光っているんだね。

とっても、美しいわ！

もしかして、
これはお日様が頑張れよと応援しているんだね。

寒いから見れた
美しい光景だね。

寒いと良い事もあるんだね。

今日もがんばろう！

キラキラ輝く
ダイヤモンドさん！
応援ありがとう！

片っぽちゃん、集まれ！

片っぽちゃん、集まれ！

お洗濯をしました。

乾燥機で乾かしました。

そして、たたみます。

あら、まあ！
片方がないわ。
又、迷子ね。
どこへ行っちゃたのかしら？

仕方が無いわね。
あなた、ここで待ってて。
いつかは見つけてあげるわ
と言って迷子幼稚園に入れました。
そこには、待っている片っぽちゃん達が沢山います。

どうして、別れ離れになるのかしら？
と片っぽちゃん達を預かっている迷子幼稚園の先生が怒ってます。

ちょっと、考えてみましょうね。

先ず、脱いだ後に、手をつないで洗濯用のかごに入れたかしら？

又、洗濯機から取り出す時に、忘れていないのか
中をのぞいているかしら？

そして、乾燥機から取り出す時にも隅の方までよく見て,取り出したかしら？

意外と、洗濯機や乾燥機の側にあることが良くありますよ。

それを次の洗濯の時に拾っても
忙しい時はそこに置きっぱなしにしたりしてませんか？

また、乾いた片っぽちゃんをタンスの隅っこに置いたりしてませんか？

結構、このタイプが多いですよ。

さあ、今日はタンスや部屋の隅っこに置いてある物を
みんな集めましょうよ。

そうね。
迷子さん！出ておいで。
と家の住人が言いました。

ダンスの隅でかくれんぼしている、あなた！
鬼ごっこはおしまいよ！
出でおいでよ。

すると、あっちからも、こっちからも
タンスの引き出しを押して、出てきました。

あら、あなた！顔がクシャクシャじゃないの。
どうしたの？

だって、ずっと待っていたからさ
疲れてあっちに、ころがり、
こっちに転がったりして寝ていたからだよ。
僕はもう諦めていたんだ。

そうだったの、ごめんね。

みんな、ここに集まって、

まあ、こんなに集まったの？

こめんね
みんな、長いこと待ってたのね。

さあ、みんな！

お相手をさがし、手をつなぎましょう。

そして、ペアになって踊りましょう。

いいわね。
どんな踊りにする？

それは、やっぱり、靴下音頭でホークダンスだよ。

おっけ！
音楽がなり出すと自分のペアーを見つけ
手を取り合い踊り出しました。

みんな楽しそうです。

今度からは手を離さず、
右も左も一緒にいましょうね。
約束よ。

皆さん、これからは大事に、はくわね。
そして、丁寧に揃えて洗濯機へ
そして干す時もペアでいるか確認するね。

靴したさん！
いつも足を守り、
暖めてくれて
ありがとう！

落ち葉さん、連れて行ってよ！

落ち葉さん！連れって行ってよ！

ある、嵐の午後です。

落ち葉さん達が追いかけっこして遊んでいます。

それを眺めている、可愛い女の子が
落ち葉さんに尋ねました。

ね、ね、落ち葉さん！

貴方達はどうして、そんなに回転が上手なの？

私は貴方達みたいに奇麗に回転ができないわ。

風に乗って、
何処までも転がって
遠い所まで行きたいなあ。

ね、おしえて！

そこで、回転の一番うまい、落ち葉君が手をあげた。

いいよ。
と言って上手く転がるコツを教え始めました。

まず、気を楽にして
何にも考えず、ただ、風を待ちます。

そして、良い風が吹いてきたら、
心でこう願うんだ。
風さん、あなたと、
どこまでも、ついて行くから、宜しくね。
そう祈っていると、風がうまく助けてくれるよ。

いつも、僕は目をつぶって、
風に身を任せて、転がっているだけさ。

君もそうやってごらん。

ところで、君はどうして、
遠くへ行きたいの？
と落ち葉君が女の子に尋ねた。

すると、女の子は下を向いて答えました。

私はね、妹とお母さんと離れて暮らしているの。

時々、妹はどうしているのかなあと思うの。

その時ね、風に乗って飛んで行きたいと
思うのよ。

だから、落ち葉さんが飛んでいるのを見て、
とても、羨ましいとおもってたのよ。

今日は教えてもらったから
妹やお母さんに会いたい時は、
目を閉じて、
幸せにしている妹の顔を想像してみるわ。

そしたら、私の気持ちは風に乗って届くのね。
寂しくないものね。
よかった。

落ち葉さん！
あなた達は毎年、そうやって、家族に会いに行っていたのね。
偉いわ。

私も負けずに頑張るわね。
いつかは会えるものね。

ありがとう！

木の枝と女の子

木の枝と女の子

ある寒い午後です。
窓から女の子が外を眺めていました。

木の枝が折れんばかりに揺れています。

長い枝は地面を掃いてます。
そこで、女の子は外に出て
木の枝さんに尋ねました。

ね〜ね！木の枝さん！
寒いね。
彼方は大丈夫なの？
寒くないの？

私は分厚いコートに、
マフラー、
帽子と手袋
そして、長い靴下にブーツをはいているよ。

彼方は葉っぱがみんな落ちているし
寒そうね。

そうだよ、でも、僕は大丈夫だよ
と木の枝さんは元気に答えた。

どうして？
と女の子が体を振るわして尋ねた。

僕は寒い時は運動をするんだよ。

え〜？運動をするの？
彼方は動けないでしょう？

動けるさ
ほ〜ら、ねと枝を揺らした。

本当だわ。
でも、どうして、揺らせるの？

それは簡単さ！
こうやって、風が吹いてくるだろう。
その時に、手を出して風と握手をして、挨拶をするだよ。
思い切り強くね。
すると、風さんがどれれぐらい寒い？
と聴くの。

僕はこれぐらいと答える。
すると、風さんは言われた分だけ吹いてくれるのさ。

僕は寒い時は思い切り風に手伝ってもらって運動しているだ。
だから、寒くは無いんだ。

君もやってこらんよ。
家の中にばかりいないでさ。

そうね。
私も風に乗ってみたいわ。

よっしゃ！僕が風の来る時を教えてやるよ。
ほら、もうすぐ来るぞ。

あっちの枝が揺れているだろ。

ほんとうだ。

さあ、一緒に風に乗るよ。
君の手を握ってもいいかい？

いいわよ。

その方が上手く揺れるからさ。

うん。

女の子と木の枝さんは仲良く手をつないだ。
本当だ、よく飛べるね。
面白いわね。

しばらく、揺れて遊んでいると女の子が、
暑いと言ってコートもマフラーもいらない
と脱ぎだした。

それを見ていた木の枝さんが嬉しい顔をした。
君は良い子だね。
と女の子に優しく言った。

女の子は木の枝さんの優しさを感じた。
そして、木の枝さんの手を強く振りながら
木の枝さん！
私は部屋でゲームばかりしてた。
体を動かしていた方が気持ちが良いわね。
それに、暖かくなるし。
良い事だらけだわ。
お友達にも教えてあげたいわ。
いい？

もちろんだよ。
お友達みんなに教えてあげてよ。
と木の枝さんはとても嬉しそうに答えた。

あ〜あ、今日は良いことを教えてもらったわ。
と言って嬉しそうに木の枝さんと別れた。

それから、女の子は木の枝が揺れているのを見るたびに
体を動かしていた。

野菜の三者会談

我が家の裏庭で何やらもめています。

どうやら、野菜畑のようですね。

行ってみましょう。

タマネギさん、
ニンニクさん
とニラさんが自分が一番偉いと揉めてます。

どうしたの？
聞くと

タマネギさんが汗をかきながら言い始めた。

僕は野菜の中で一番よく使われているから、僕が一番さ！

なに、言っているの？
俺様だろう。
とニンニク様が顔を赤くして、香り付けに良く使われているから
俺だと言った。

そこで、ニラ様が俺が一番に重宝がられている。
だから俺が一番だ！
と頭にねじりはちまきを、きつく閉めながら言った。

ふ〜ん、そうか、そうか、皆、自分が偉いと思っているのね。
じゃ、野菜作りの名人に聴いてみようよ。
と言ったら
すぐに野菜作り名人がクワとカマを持ってやってきました。

野菜作り名人が畑に入って

ニラさん達をカマで刈りながら
ニラは刈り取ってもすぐに伸びて来る。
何度も取れる。
毎年、取れるね。

ニンニクさんは一度きりだ。
でも、取れたニンニクは長持ちするな。

タマネギさんも長持ちだ。
自分の皮で乾燥を防いでいるからね。

ニラさんは取ったら、直ぐ料理しなくてはいけない。

ニンニクさんとタマネギさんは長持ちするね。

そうだな、野菜作りをしている人にとっては
ニラさんが長くお付き合いしてくれるし、
世話がいらない。
だから、私にとってはニラが一番かな。

それを聞いていた、ニンニクさんとタマネギさんは不服のようです。

そして、料理名人に聴くためにお台所にやって来た。

お料理名人が
ニラ君はニラ玉やニラレバーには欠かせないね。

ニンニクさんは味の決めてにいいね。

タマネギさんはスープ、カレー、シチュー作りには欠かせないなあ。
そして、炒めてよし、揚げてよし、煮物によしだね。
何とでもなるから、
タマネギさんが一番かな。

そこで、ニンニクさんがとても不服そうに臭いをぷんぷんさせた。

そこへ、食べる名人がやってきて

僕はニンニクの入った料理が美味しいと思うよ。
それに、ニンニクは体に良いよ。
食べると元気が出る。
臭いは魔を払うと言うじゃない。
だから、僕はニンニク君が一番だと思うよ。

おや、まあ！
皆、意見が分かれましたね。

ニラさんがやっぱし、私が一番ね。

何言っているのよ俺だろ、
いやいや私じゃ　タマネギの方が偉い、偉い、一番だよ。

まだ、もめています。

そこで、始めから、このもめ事を見ていた家の人が話だしました。

私はニラさんも、
タマネギさんも、
ニンニクさんも皆、それぞれに他に無い良さが有るもの

だから、皆が偉いと思うわよ。

私は３人の子供がいますが、一人一人に長所と短所があるわ。

３人の中で誰が一番かわいいと聞かれても、
誰が一番に可愛いって、選べないわ。

一人、一人に個性があり、持ち味が有るのよ。
悪い癖が有っても可愛いし、愛おしいわよ。

一人、一人、産まれて来た大事な理由が有るのよね。
私は３人の子供達から色々と教えてもらっているわ。
だから、
ニラさん！
貴方は特別な野菜さんですよ。わたしはよく食べていてますよ。

好きですよ。

タマネギさん！
　貴方も素晴らしいよ。
経済的にも助かるし、いつも買っているわよ。
私は好きですよ。

ニンニクさん！
貴方も大事な食材ですよ。
美味しさを増してくれるから、いつも使っているわよ。
好きですよ。

だから、皆、素晴らしい食材ですよ。
みんな、仲良く畑で遊んでね。
そして、美味しいニラさん、
タマネギさん、
ニンニクさんになってね。

いつも,有難く頂くわね。

ごちそうさま！

親離れ、子離れどっちが先か

　親離れ、子離れどっちが先か

最近　親の方が子離れが遅いとか良く言われますね。

親が甘いから子供がいつまでも自立できないと簡単に言って
もらっては困ります。

実際に困っている家庭が沢山有る
この世の中の在り方を考えて行くべきです。

親の時代と子供の時代は大きく異なり

親の育った環境
特に家庭の在り方はしっかり人の心を育てる。

親の離婚が少なかった時代
貧しかろうが両親が居てくれた。
物に対する有り難みが有った。

現在は物質的に豊かですね。
でも、親の離婚が増えました。

それに伴い子供の心は病んでいます。

離婚をした親は子供に悪い環境にしてしまった気持ちで
つい、強気で子育てが出来ない現状です。

そこで、離婚した両親が子供の問題に対して真剣に向き合って
同じテーブルについていれば何とか問題も解決していくようです。

しかし、現実には毎日の生活に追われ
子供の事が後回しになりがちです。

子供の痛みが表面に現れてきて
はじめて、もっと早くに向き合えば良かった

と築くのです。

その頃には、子供は一人で社会に出れる状態では無く
親もどうして良いのかと戸惑ってしまいます。

親自体が心の病に犯されてきて
もっと面倒な事に成ってします。

前に進む事が出来ない
しかし、生活の為に忙しく働かなくてはいけない
心に余裕が出来ず、暗いトンネルに入っていってしまいます。

そこで、いい医療機関や社会福祉にお世話に成る方法を選び
心の痛みを取ってもらいつつ
親も子供の身に成って考えて
理解して行くと時間は掛かりますが
少しづつ良く成っていきます。

普通の世間の考えは
大人に成ったから自立をしなくていけない
という、その家庭を理解出来ない周りの意見に
惑わされず取り組むべきです。

つい、親も疲れ果てて、なんであなたは
何時までそうなのよ
と言いたくなります。

言っても何の解決には成りません。

返って子供の負担を増やすだけです。

親も携わる時間が増えて行くだけです。

親は問題に対象していくだけの知識、忍耐，愛情が必要です。

問題解決のプロに相談すると
冷静にその家庭の問題点を指摘し

そして、解決の方法を教えてくれます。

そうすると、今まで親の考えだけで悩んでいた事が嘘の様に
離れてきます。。

皆が将来は闇だと思っていた霧が晴れ
問題が薄らいでいきます。

そして、家族に希望が出てきます。

今まで、家族で悩み、取り組んできた事が懐かしくなります。

いずれにしても
もっとも、大事な事は子供の心の痛みがどれほどかを知る事です。

分かれば同じ目線で話ができます。

そして、子供の心に入り込むことができたら少しづつ
心の穴を親の愛情で埋めて行けばいいのです。

そんな事をやって対象していると
時は流れて世間で言う自立できる
年齢は大幅に過ぎていきますが
しかし、それでいいのです。

世間並みにできなくても
その方が早道なのです。

親がそれでも良いんだと
強く構えていれば何の問題もない
世間を気にする事もない
自信をもって焦らず向かい合っていけば
必ず暗い、長いトンネルを取り抜ける事ができます。

トンネルの出口の明るさが見えたら
益々、希望が見えてきて　いままで逃げ出さずに
良かったとつくずく思うものです。

後は出口を飛び出せたらこっちのものです。

　明るくて、喜びの声が聞こえてきます。
　そして体を動かし筋肉を身につけて強く成って行くのです。

筋肉が付けば少々の嫌な事があっても
跳ね返せます。

そして、考えもプラス思考に成ります。

そうすると家族も喜び、いつしか楽しい会話が飛び出し
食事も美味しく食べれますね。

心配事のある時の食事は豪華でも
美味しく感じません。

粗食でも家族の笑顔がご馳走に変わっていくのです。

辛い経験をすると
家族に何も起こらす
みんなが平凡であれば
それが一番、幸せだとつくづく思います。

だから、子離れをする親と親離れをする子供どっちが早いではなく
双方とも同時だと思います。

又、離れていくのではなく
より近づいてくるのです。

そう強く思います。

私変ですか？

私変ですか？

とても大変な事が起きているのに私は平気だよ。

そんなに大変だと思わないの。

変ですか？

みんながジャワーのお湯が止まらない
ノブが壊れた！
と大声で騒いでも

私は冷静に元栓を止めて蛇口を直す事ができたよ。

すごいね。

小さい頃
親が喧嘩をしていても平気だよ。

下手に私が同様をすると
もっと酷くなるからだよ。

だから冷静に
平気な顔をしてお絵描きするんだよ。

変ですか？

あの人は変な人だから
遊ばない方が言いよ
と言いても私は平気だよ。

変だと思わないからだよ。

変ですか？

私が４歳の時にうんちをパンツにしちゃっても平気だよ。

自分で紙に包んでカバンに入れて持って帰ったよ。

変ですか？

保育園の先生はほめてくれたよ。

普通の子は泣くよって。

私が赤ん坊の時に
保育園に預けられても泣かなかったよ。

変ですか？

普通の子は最初は泣くそうです。

親は手が掛からず助かったと言ったよ。

私も親も変ですか？

大きく成って
長く外出が出来ません。
人の態度が気になるから
疲れて大変です。

時々、相手の言っている事が
理解できず誤解され
大変です。

自分の格好が気になり、
良い格好していても直ぐ外に出れません
大変です。

でも、私は人の事を悪くはいいません。
えらいね。

私は人の良い所を直ぐ見つけます。
すごいね。

私は意外と解釈が良い時があります。
すごいです。

私は人が嫌がる事はしません。
優しいね。

私は人のせいにしません。
　立派ですね。

私は今の生活を他人から大変そうですね。
不自由ではないの？
辛くはないの？
と良く聴かれます。

私は平気です。
変ですか？

私が私の人生をこれで良いんだ
と思って生きているから
それでいいのです。。

まだ、変ですか？

いやいや
素晴らしいです。
変だと思う人が変なのです。

目が先が後か？

目が先か後か？

皆さん！笑わないでね。

私は又、変な事を思いましたよ。

それは、神さまは
顔の中で目を先に作られたのか、
後で作ったのかと。

私達は新鮮なリンゴを

目で見て、丸くて赤い色。

手で触って、つるつるしている
丸くて、どっしんとしている。

鼻で臭いをかいてみて、甘い香りがする。

食べてみて、甘い汁が美味しく感じる。

耳でサクサクしている食べる音が聞こえる。

とリンゴの特徴がわかりますね。

もし、腐っているリンゴでは

目で見て、色は赤色でなく、くすんだ色。

手で触ってみて、少し柔らかくて、しわがあるもの。

臭いを嗅いでみて、いやな臭い、酸っぱいにおい。

食べてみて、舌が不味いと教えてくれる。

ここで、ちょっと考えてみましょう。

目が見えていれば、色や形で腐っていると直ぐに解りますね。

見えていなければ、触ってみて手触りで少し 変だとか

香りをかいてみていやな臭いだと食べる気になりませんね。

私達が目がなかったとしたら
持っている
臭える、
噛める、
聴こえる、
触れるなどの機能を活かしていくしか有りませんね。

見えなければ、
耳で聞こえる音で何が起こっているのか、

香りでこの人は誰なのか、
どんな花なのかとか。

触って、物や人を知ったりできますね。

見えなくとも、何とかあらゆる方法で解る，知る努力をして
解った最後に
神様は一目見て解るような目を作ってくれたのではと思いました。

そう考えると、私達が困難にぶち当った時に
何とか解決していこうと
あらゆる事に挑み
努力し続けていると
意外と簡単に解決策が見つかると
いう事ですね。

人に頼らず、自分で出来る事をコツコツとやっているうちに
少し、少しずつ
といい方法が見つかっていくものなのね。

だから、最初から
人に頼らない、
家族に頼らない

世間に頼らない

国に頼らない

先ずは自分から進んでやる事が大事ですね。

と変な事を考えているうちに、
思わぬ良い事に築かせて頂きました。

儲かっちゃた。

ありがとう！
頑張ろう！

我慢は自慢

我慢は自慢

明日は腸の検査のため、食べれません。

検査の前日のお昼に三粒の薬をのみました。

そして、お腹がゴロゴロと鳴りだしたら
薬の混じったお水を飲み出します。

でも、ゴロゴロ言ってくれません。

お腹は空いています。
考える事は食べ物のことだけです。

これは困ったさんの登場です。

困ったさん！
どうして困っているの？

だって、お腹が空いているのに食べてはいけないでしょう。

だけど、食べ物の事しか考えられないの。

すると、もっと食べたくなるでしょう。

それを素直に食べたら、明日の検査ができないでしょう。

さあ、あなたならどうする？
食べずに我慢しますか？

それとも、解らない程度に少し食べますか？

どっちを選びますか？

まず、腸さんに聴いてみましょうよ。

それは良い提案だね。
ね、ね、腸さん！、彼方はどう思う？

それは、食べずに検査を受けた方が良いね。

たまには絶食をすると私は助かるんだがな。

最近は食べ過ぎだよー。
お肉料理が多いし、特にカロリーが高い。
胃さんが働いた後、私や他の臓器さんが頑張るんだけど
みんな処理しきれないよ。

みんな，悲鳴をあげているよ。

 昔みたいに、お野菜を沢山食べればいいよ。

脂肪は良く運動をして体を暖めないと溶け易いだよ。

自分の体温より高い動物の肉は溶かすのに時間が掛かるんだよ。
だから、たまには胃さんや私の為に
溶け易い食べ物

負担にならないものを食べたら助かるね。

腹八分目とよく言うでしょう。

これは神様が胃さんや私達に無理をさせないための言葉だよ。
と腸さんは長い体を
膨らませたり、
ちじめらりして言った。

それを聴いていた腸の持ち主がお腹をさすりだした。

ありがとう！　腸さん、少し解ってきたよ。

肉の好きなアメリカ人は日本人より体温が高いから

多く食べても害が少ないだね。

私達がアメリカ食を食べてはいけないのね。

私達が昔から食べている、
お野菜や魚さん、豆類、穀物などが
体に合っているんだね。

日本は海に囲まれているから
恵まれているね。

最近は外国の料理を沢山紹介されているけど
やっぱし、日本人は日本食が一番だね。

腸さん、色々と教えてくれてありがとうね。

話を聴いていると
何だか我慢できそうだよ。

そう思ったら
ゴロゴロし出した。

よかった。
ちっとも苦しくないわ。

明日の検査の為、
腸さんのため、
それは私の為。

我慢できたわ！　自慢よ。

恋をすれば、いつまでも乙女

恋すれば、いつまでも乙女

我が愛する愛しの君はいかがお過しでしょうか？

とある中年の女性が独り言を。。

そして、彼女は若い乙女の様に、今日も可愛いお洋服に身を包み、
世界中の方が幸せな１日を過せます様に
お祈りをしました。

そして、お掃除をして、
お料理を済ませ、
ほっと一息
美味しいお茶をたてだしました。
湯のみは２つ

ひとつは自分の為に
もうひとつは美味しいお茶を飲ませたい彼方の為に
心を込めて、お湯を注ぎ、普段よりお茶の葉を多めに
そして、心静かにその方の幸せを願って待ちました。

お祈りが終わった頃に湯のみ２つに注ぎました。

そして、彼女はとても幸せそうな
笑みを浮かべながらお茶を飲みました。

飲み終わった彼女が、今日も美味しいわ！
と自慢げに囁いていました。

その様子をみていた若い女性が、
私もあなたみたいに心のそこから、
他人の幸せを祈ってみるわと言って、
自分の部屋を片付け
トイレのお掃除をして
玄関のドアを拭きました。

その若い彼女の顔は麗しく輝き出した。
そして、毎日のように祈りながら、
自分の出来ることに夢中になって
はげみました。

幾月が過ぎた頃に、
彼女に恋人が現れ
結婚を申し込まれました。

もちろん、彼女は受け入れ、結ばれました。

その経過を見守っていた中年の女性は、

今度は私の番ね。
といつもの様に、
まだ見ぬ愛しい君のために
今日も心を込めて
励み続けました。

同じ様にこの中年の女性にも漸く、
チャンスが訪れ、結婚しました。

しかし、二人は離ればなれに住んでいます。
問題はありません。
二人は相手の姿は見えずとも
、聞こえて来る電話の声だけで幸せなのです。

いつか一緒に住む事を夢みて、
彼女は恋する若い乙女の様に美しくなっています。

恋する事は素晴らしい、生きていくための心の栄養剤ですね。

歳に関係なく素敵な恋をしましょう。

そして素晴らしい人生を送りましょう。

貴女も乙女の様な恋をしてみませんか？

猫様に怒られた

今朝、猫様に怒られました。

どうして？

我が家の猫様は水道の蛇口からお水を飲みます。
朝ご飯を食べてから、
すぐに、私の部屋のシンクに上がり、
私が蛇口を開けるのを持っています。

時には待ちくたびれ、諦めて、下りてきます。

でも、今朝は、待っている姿が可愛いので、ずっと眺めていました。

すると、私の顔を見るなり、
にゃ～にゃ～、にゃ～
もの凄い怖い顔をして怒った。

ごめん、ごめん，つい、可愛いから。。

お水が欲しいの？
あたりまえにゃ～
とプンプンしてます。

僕がシンクに上がって、ずっと水道の蛇口をみているは
のどが乾いて、お水が欲しいから
にゃ～ん？

それに、俺たちは人間様みたいに、
ビールが欲しいとか、
コーヒーが良いとか、
飲み物の注文はしないだろう。
ただのお水が飲みたいと、にゃ～ん？

はい！はい！　おっしゃる通りです。

猫様！

そうね、私も１日の始まりにコーヒーを飲み
昼の食事に日本茶を飲み
午後のおやつの時間に紅茶を飲み
又、夕食の時はワインを飲むしね。

たまに、ソフトドリンクもね。

私達は飲み物だけでも色々な物を飲んでいるんだね。

猫様は自分の手で蛇口をひねる事ができないものね。
大変、失礼しました。

それに比べたら、私達は手が使えるのに、上手く使っているかしらね。

洗濯機、皿洗い機、掃除機にお願いしてますね。

昔に比べて、楽に成り過ぎたせいで、有り難みを忘れちゃったね。

家族に対しても、つい甘えているわ。

自分で取れるのに、それ取ってとか、
おい！お茶！とかね。

天国に行ったアメリカ人の旦那様が、自分の出来る事を
人に頼むのは恥だと言ってた。
彼は息苦しく動きにくくても必死でこなしていたわ。

考えてみると、私達は側にいる人に頼っちゃっているね。

たまに、それ取ってと命令していませんか？
反省！、反省しなくっちゃね。

猫ちゃま！
また、怒ってね。

もしもし　かめさん！

　もしもし！　かめさん！

ある日の朝

電話が鳴り
もしもし、亀さん！かめさんよ！
と女性は言ってます。

すると、電話の向こうから
　I　Love You !と言ってます。

そこで　I　Love You!
と言ってます。

これは、こだまでしょうか？

いえいえ、これは愛し合う恋人同士の会話です。

二人は遠く離れて暮らしています。

夫々に住んでいる所に
やるべき事が有るからです

お互いに移り住む訳にはいきません。

まぁ〜可哀想に！

大丈夫です。
このカップルは幸せなのです。

なぜなら、お互い信頼、尊敬し合っているからです。

それは羨ましい！

お互いにメールのやり取り

朝は（おはよう！）（おはよ〜）と始まり

素晴らしい１日にしましょう。
そう努めます。
とお互いの１日の約束します。

そして、昼頃に電話で囁いたり

又、メールで
お〜い聞こえるかい？
聞こえるよ〜
とやり取りします。

そして、寝る前には
お休み〜
おやすみ！として
今日も楽しい１日でした。愛して居るよ。
明日も楽しい１日にしましょう！

そして、彼女も、
素晴らしい日と貴方様に感謝します。
ありがとう！
貴方の愛は私の愛
と書いてその日のメール交換は終わりです。

そして、素晴らしい睡眠に入り、
夢の中で会うのです。

だから、愛が途切れる事なく続くのです。

へぇ〜面白いね。　中々そうはいきませんね。

しかし、時々、そのメールが止まります。

どうしたの？

彼女がストライキを起こすのです。

余りに幸せ過ぎるから？
一緒に居られない寂しさで
将来が心配に成ったようです。

そうだよ。
解るわ。

いくら電話やメールで
愛していますと言いてくれてもね。
やはり、乙女です。

二人向き合って、
手を取り合って
語り合いたいもんね。

そして、愛を囁きたいよね。

もちろんよ。

もし、
ただ言葉や声だけで恋がつづくなら
この世は空想の世界を
生きる事になりますね。
これは問題だ。

やはり、近くで一緒に呼吸する。
一緒に生きている事を感じる。
それが幸せを実感する事ですよね。

私の住んでいるアメリカでは
いくつに成っても恋をして
７０歳、８０歳で結婚する方がおります。
とても素晴らしいです。

伴侶を亡くして直ぐ結ばれる方が居ます。

残りの人生を又、新たな方と
楽しく送る。

とても楽天的な国ですね。

私のイベントで８０歳代のカップルが見えました。
１年前に結婚したそうです。

奥様は皺は沢山あっても
奇麗にお化粧をして
とても幸せそうです。

私は旦那様に
こんな素敵な奥さんがいて幸運ですね。
と言いました。

すると、旦那様は
僕はラッキーだと言いました。

そこで奥様も直ぐに
私もこの人と出会えてラッキーですと答えました。

 旦那様は奥様の車いすを上手に動かして
奥様も微笑んでおられて
幸せが滲み出ていました。

そんな微笑まし老人カップルを見ていて、
良いもんだと思いました。

私も勇気付けられました。

ところで、ストライキの彼女は？
二人の恋はあれで終わりなのでしょうか？

いえいえ
彼女がごめんなさい！、ちょっと我がままでした。
又、何時ものおしゃべりしましょう。

貴方の素敵な声を聞かせてね。
と素直にメールを送ったようですよ。

すると、そのメールの返事が直ぐに来ました。

その内容は
何時もと変わらず
もちろんだよ！
僕の愛する人よ。
と有りました。

キャ〜！素敵！

よかったね。心配したよ。

何時もの様に、
今日も貴方様を愛してますよ。
僕も君を心から愛しているよ
とメールのやり取り、
そして、（もしもし！）
（は〜い！亀です）
といつも通りです。

あ〜良かったね！

この二人の恋は
ず〜と続いている様ですよ。

それはそれは
ご馳走さまです。